

## 保育所における生活技能についての調査から The research about the life skill in nursery school

土谷 長子  
Hisako Tsuchiya

キーワード：（生活技能）（日常生活）（身体機能）

### I. はじめに

全国国公立幼稚園・子ども園長会から平成28年3月に公開された「特別事業2015 遊びを通して、子どもの生活体験を豊かにする調査研究1」において、幼稚園・子ども園における幼児の子どもの実態として、子どもの生活技能についての調査（以下、「生活技能調査」）が発表された。この中で、「『水道の蛇口をひねる』『手をこすって洗う』といった手を使う技能は身につけているが、『ひもを結ぶ』『はしを正しく持って使う』といった手先を使う技能は十分に身に付けてはいないととらえている」とされている。この調査結果を踏まえ、保育所における幼児についての調査を行い、その結果の分析を試みた。

### II. 調査の概要

#### 1 調査時期と方法

2016年12月にA町立保育所の2歳児クラスから5歳児クラスにおいて、各クラス担任に調査協力を依頼した。調査項目は「特別事業2015 遊びを通して、子どもの生活体験を豊かにする調査研究1」で用いられている内容であり、以下の調査票（図1）を用いてチェックを行ってもらった。さらに各クラスの担任に、半構造化インタビューを行った。

### III. 調査結果

A町立保育所における2歳児クラスから5歳児クラスまでの2歳以上の幼児。

5歳児クラス 26名（5歳9ヶ月～6歳8ヶ月）

4歳児クラス 23名（4歳10ヶ月～5歳8ヶ月）

3歳児クラス 23名（3歳9ヶ月～4歳8ヶ月）

2歳児クラス 12名（2歳8ヶ月～3歳8ヶ月）

5歳児クラスの幼児ではすべての項目で「できる」とチェックされていたのは、13名であった。「できない」項目で目立つのは「はしを正しく持って使う」で13名であった。つまり、はしが正しく持てている幼児についてはすべての項目ができているということになる。この保育所では、子どもたちは基本的には、保育所で提供されるはしを

子どもたちの生活技能	
組 月年齢（ 歳 ヶ月）	
手をこすって洗う。	できる・できない
水道の蛇口をひねる。	できる・できない
タオルや洋服をたたむ。	できる・できない
ファスナーの開閉をする。	できる・できない
はしを正しく持って使う。	できる・できない
雑巾でテーブルや机を拭く。	できる・できない
ふきんを絞る。	できる・できない
ひもを結ぶ。	できる・できない
物を包む。	できる・できない
傘をつぼめる。	できる・できない
洗濯バサミを使う。	できる・できない
その他、特記事項	

図 1

使用している。5歳児クラスの場合は、ほぼすべての幼児が保育所のはしを使用しており、まだ正しく使うことができない幼児についても、正しく使用できるよう、見守り、指導しているということであった。月年齢による影響もみられ、5歳代の幼児のすべてにおいて、はしを正しく使用できていないことがうかがえた。「手をこすって洗う」「水道の蛇口をひねる」「タオルや洋服をたたむ」「雑巾でテーブルや机を拭く」「物を包む」「傘をつぼめる」「洗濯ばさみを使う」は、全員の幼児が「できる」にチェックが入っていた。これらの活動は保育所では毎日その機会があり、幼児が直接かかわることができる項目である。洗濯ばさみは5歳では鍵盤ハーモニカの使用后、吹き口やホースを水洗いし、吹き口を洗濯ばさみではさんで干す、ということを日常的に行っている。上手にはさまないと、落ちてしまうこともあり、子どもたちが工夫をしながら、上手にはさむことができるようになっている。

4歳児クラスの幼児で、すべての項目で「できる」とチェックされていたのは、6名であった。「できていない」項目でチェックが多かったのが、「ひもを結ぶ」であり、15名であった。また「はしを正しく持って使う」についても、10名の幼児が「できない」にチェックが入っていた。4歳児クラスでは保育所から提供されるはしを使用せず、矯正箸を用いている幼児もいるということである。はしの使い方が上手ではない幼児の保護者から、保育所でも矯正箸を使わせてほしいと依頼があったことがきっかけだったようだ。その話を他の保護者が聞いて、持ってくるようになった幼児が数人いるということであった。「ひもを結ぶ」については、この保育所では保育所で汚れた衣服

などを家に持ち帰る際、ビニール袋に入れ、ビニール袋の口をしぼるよう子どもたちに促している。子どもたちは保育士たちに見守られて、ほぼ毎日その行為を行っていることから、上手にできているわけではないが、毎日取り組む姿がある。4歳児クラスで全員に「できる」とチェックされていた項目は、「手をこすって洗う」であった。この項目については、2歳児クラスから5歳児クラスのすべての子どもたちについて「できる」にチェックが入っていた。保育所という集団生活のため、入所当初から頻繁に声をかけられる行動であり、しっかりと身につけている様子がうかがえる。また「洗濯ばさみを使う」に「できる」とチェックが入っていたのは22名であった。このクラスでは帽子のつばを、洗濯ばさみではさんでかけている。こうした日常の生活が反映された結果となっていると思われる。

3歳児クラスの幼児では、「ふきんを絞る」については、全員が「できない」とチェックされていた。その他「できない」幼児が多かった項目は、「はしを正しく持って使う」が22名、「ひもを結ぶ」が13名、「タオルや洋服をたたむ」が12名であった。少しずつはしを使うようにしているものの、まだフォークやスプーンで食べている幼児が多い。年末ぐらいからはしを積極的に使うよう、指導を始めるということであった。その際には保育士が持っている姿を見せ、まねることができるようにしていくということである。また遊戯室での活動の後は、必ず幼児全員で遊戯室の床を雑巾で乾拭きする。このことから「雑巾でテーブルや机を拭く」はほぼ全員の21名ができている。「できる」項目では、「水道の蛇口をひねる」が21名、「傘をつぼめる」が21名、「物を包む」が21名、「洗濯ばさみを使う」が20名であった。この保育所では子どもたちがよく使う保育室の前の蛇口はプッシュボタン式の蛇口であり、ひねるタイプの蛇口は園庭にしかない。従って確認ができなかった幼児もいるため、この数字となったという。このクラスは月年齢による影響はあまり見られなかった。

2歳児クラスでは、前述のように「手をこすって洗う」は全員が「できる」にチェックが入っている。またその他、「洗濯ばさみを使う」も11名の幼児ができている。このクラスではひも通しや洗濯ばさみを用いた手作りの道具を積極的に取り入れている。その他「できる」項目としては、「雑巾でテーブルや机を拭く」で9名の幼児ができていた。「できない」項目としては「ファスナーの開閉をする」と「ひもを結ぶ」は全員がチェックされている。また「水道の蛇口をひねる」が「できる」幼児は3名、「タオルや洋服をたたむ」では5名、「はしを正しく持って使う」が2名、「ふきんを絞る」が2名、「傘をつぼめる」が2名であった。年齢相応の影響だと思われる。ただ、水道の蛇口に関してはおもちゃの水道の蛇口はひねる動作ができる幼児が多いのだが、実際の水道の蛇口となると、指先の力が足りず、ひねることができなかったということであった。また傘については、近年使われている幼児の傘はワンタッチのものが多く、「つぼめる」行為については、自動開閉ではない傘よりも力が必要なことも関係しているのではないと思われる。はしの使用については、まだスプーンやフォークの使用する時期であり、はしを使う機会がまだ少ない年齢である。しかし、スプーンやフォークにしても、まだペンシルホールド<sup>(1)</sup>ができない幼児もいる。このクラスは月年齢の影響が若干見られた。(表1-1、表1-2、表1-3)

#### IV. 考察

この調査については、2歳児クラスから5歳児クラスまで、年齢ごとに調査を行った。その結果、実年齢では2歳8ヶ月から6歳8ヶ月までの幼児の実態を調査することができた。「生活技能調査」において、できている項目とされている、『水道の蛇口をひねる』(身に付いている 70.3%)『手をこすって洗う』(身に付いている 58.6%)の

(1) 鉛筆を握るように、親指、人差し指、中指の3本の指を用いて、スプーンひゃフォークを握る持ち方。

項目のうち、特に『手をこすって洗う』については、この保育所ではすべての子ができていた。早くから集団生活に入っている保育所の幼児にとって、「手を洗う」という経験は普段の日常の中で頻出する場面である。つまり日常生活の中で身につけているものだということができる。また『水道の蛇口をひねる』においては、3歳児クラス以上で、ほぼできていた。2歳児の結果でもわかるように、「ひねる」行為をすることはできても、実際の蛇口をひねるためには相応の手の力が必要であることから、発達段階による影響があることがわかる。3歳以上でみると、ほぼ、「生活技能調査」と同じような傾向にあることがわかる。

また「生活技能調査」において、できていないとされている、『ひもを結ぶ』（身に付いていない 76.2%）については、5歳児クラスの幼児はほぼできていた。しかし、4歳児クラスではできていない幼児も多く、あわせてみると、「生活技能調査」とほぼ同じ傾向があることがわかる。しかしながら日常生活の中で、降所時に汚れた衣服類を自分で袋に入れてしばるという習慣があり、これが5歳児クラスの『ひもを結ぶ』という技能を上げていると考えられる。また、『はしを正しく持って使う』（身に付いていない 66.7%）については、5歳児クラスで半数の幼児、4歳児クラスでは7割、3歳児クラスでは9割の幼児が未熟だとされており、『生活技能調査』の結果より、さらに厳しい結果が出ている。ただ、「生活技能調査」においても『はしを正しく持って使う』は「身に付いている」と「身に付いていない」で、教師と親との認識に大きな差が出ている項目である（『はしを正しく持って使う』「身に付いている」教師4.7% 親22.9% 「身に付いていない」教師66.7% 親39.3%）。『はしを正しく持って使う』に求められるレベルにも差があるのではないだろうか。今後は親の目線から見た調査にも取り組んでみたい。

「生活技能調査」では、『ふきんを絞る』ができていない項目に上がっていた（身に付いている 8.5% 身に付いていない 48.3%）が、この保育園の5歳児、4歳児においてはほぼできる項目となっている。これも、保育園生活の中でおそらく身に付く行動であると思われる。ただ、3歳児クラスではすべての幼児が「できない」となっており、判断する時に求めるレベルにも差がみられるかもしれない。今後精査したい点である。

## V. さいごに

この調査をすることで、最近の日常生活を振り返る機会ともなった。たとえば、調査した保育所においても子どもたちが日常的に使用している蛇口がプッシュボタン式であり、普段は「ひねる」という行為が日常生活の中で求められていないこととなっていた。最近、商業施設などのお手洗いなどでは、多くの施設が自動水栓を設置している。そのように振り返ると、幼い頃からすでに便利な道具があたりまえのように身近にあり、子どもの身体活動を育む機会が失われているかもしれない。「生活技能調査」にある『傘をつぼめる』という技能は、明らかにワンタッチ式の傘を想定しているものと思われる。まだ実際に調査した保育所でも、ほとんどの幼児がワンタッチ式の傘を使用している。ひもを結ぶについても、たとえば、紐靴であっても、子ども用のほとんどはサイドにファスナーがついているものが多い。またふきんを使って茶碗を拭くということも、家庭によってはその機会は減少しているように思われる。

保育所におけるインタビューの中では、生活技能が身に付くような活動を意識的に行っているということであった。子どもの身体機能を育むために、どの点に注意をしながら保育を行っていくかということが、ますます求められる時代であろう。今回は調査結果のみを資料として示したが、今後は「当たり前」に身に付いていく生活技能について、「意識的」に育むことに着目しながら調査を進めていきたい。

表 1-1

[illegible][illegible]

表 1 - 2

[illegible]

	3歳児クラス															2歳児クラス			
	4:05	4:04	4:04	4:04	4:03	4:03	4:03	4:03	4:01	4:00	4:00	4:00	4:00	3:11	3:09	3:08	3:06	3:06	3:04
手をこすって洗う	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水道の蛇口をひねる	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○			○	
タオルや洋服をたたむ		○		○	○	○	○						○	○		○	○	○	
ファスナーの開閉をする		○			○				○		○	○	○	○	○				
はしを正しく持って使う																○		○	
雑巾でテーブルや机を拭く		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ふきんを絞る																		○	
ひもを結ぶ		○		○		○	○				○		○	○					
物を包む		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
傘をつぼめる	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○			○	
洗濯ばさみを使う		○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	
特記事項																			

表 1 - 3

	2歳児クラス							
	3:03	3:02	3:00	3:00	2:11	2:11	2:09	2:08
手をこすって洗う	○	○	○	○	○	○	○	○
水道の蛇口をひねる	○				○			
タオルや洋服をたたむ	○				○			
ファスナーの開閉をする								
はしを正しく持って使う								
雑巾でテーブルや机を拭く	○	○	○		○	○		
ふきんを絞る	○							
ひもを結ぶ								
物を包む	○				○			
傘をつぼめる	○							
洗濯ばさみを使う	○	○	○	○	○	○	○	○
特記事項								

## 引用・参考文献

- 1) 全国国公立幼稚園・こども園長会 特別事業推進委員「遊びを通して、子どもの生活体験を豊かにする調査研究Ⅰ」『全国国公立幼稚園・こども園長会 特別事業2015』2016年